



平成 30 年度 NGO 海外援助活動助成

# 完了報告レポート

一般財団法人 ゆうちょ財団  
国際ボランティア支援事業部



## はじめに

当財団の NGO 海外援助活動助成事業につきまして、平素からご理解・ご支援を賜り有難うございます。

平成 30 年度の助成につきましては、平成 30 年 2 月に助成先 12 団体を決定し、1 年間の活動実施を経て、このたびすべての団体から完了報告書を受領しました。各団体の完了報告書から、各団体の活動等の概要をとりまとめましたので、ご高覧いただけますと幸いに存じます。

なお、当財団といたしましては、当初の申請どおり活動が適正に実施されていることを会計面も含め確認いたしましたので、下記のとおり各団体にお支払いいたしました。

また、平成 30 年度「NGO 講演会等助成レポート」についても併せてとりまとめいたしました。

団体の熱心な活動に敬意を表するとともに、今後のますますの事業発展をお祈りいたします。

2019 年 7 月

一般財団法人 ゆうちよ財団 理事長  
朝日 讓治

平成30年度NGO海外援助活動助成団体		最終助成決定額
100型	1 特定非営利活動法人アイキャン	963,100
	2 特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会	842,960
	3 特定非営利活動法人国際開発フロンティア機構	934,400
	4 特定非営利活動法人国際交流の会とよなか	1,000,000
	5 特定非営利活動法人国境なき子どもたち	980,869
	6 特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会	962,530
	7 特定非営利活動法人地球の友と歩む会	859,371
	8 特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター	1,000,000
	9 特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン	1,000,000
200型	10 公益財団法人オイスカ	1,473,659
	11 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会	1,167,150
	12 特定非営利活動法人地球市民の会	1,909,068

\*100 型の上限額は 100 万円、200 型は活動地域をミャンマー連邦共和国に指定し、上限金額は 200 万円

# 目次

## 平成30年度「NGO海外援助活動助成完了報告レポート」

12団体（50音順）

1	特定非営利活動法人アイキャン（100型）	1
2	特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会（100型）	2
3	特定非営利活動法人国際開発フロンティア機構（100型）	3
4	特定非営利活動法人国際交流の会とよなか（100型）	4
5	特定非営利活動法人国境なき子どもたち（100型）	5
6	特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会（100型）	6
7	特定非営利活動法人地球の友と歩む会（100型）	7
8	特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター	8
9	特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン（100型）	9
10	公益財団法人オイスカ（200型）	10
11	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（200型）	11
12	特定非営利活動法人地球市民の会（200型）	12

## 平成30年度「NGO講演会等助成レポート」

8団体（開催順）

1	「NGO講演会等助成レポート」について	13
2	特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン	14
3	特定非営利活動法人日本ハビタット協会	16
4	特定非営利活動法人リボン・京都	18
5	特定非営利活動法人国境なき子どもたち	20
6	特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会	22
7	特定非営利活動法人パルシック	24
8	特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会	26
9	特定非営利活動法人国際交流の会とよなか（TIFA）	28
10	アンケート結果	30

団 体 名：特定非営利活動法人 アイキャン

助成活動名：フィリピン初の路上の若者の協同組合カリエによるカフェ運営プロジェクト  
(フェーズ2)

活 動 地 域：フィリピン共和国 マニラ首都圏ケソン市

団 体 本 部：〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階

HP アドレス：http://www.ican.or.jp

設 立：1994 年

都市化が進むフィリピンでは、路上で生活をする子どもたちが 25 万人以上いると言われています。路上で生活をする多くの子どもたちは、基礎的な教育を受ける機会がないことから、大人になっても収入を得る機会が限られています。彼らが子どもを作り、新たに路上で生活をする子どもを生み出す悪循環に陥っています。

当団体は、かつて路上で生活をしていた若者のために、マニラ首都圏の大学内にカフェをオープンしました。彼ら自身でカフェの運営ができるように、調理や接客、マーケティング等の研修を実施しました。今年度は、黒字化を目指していましたが、パンの製造等により家賃や光熱費等の経費がかかることから、経費を抑えることができる「勉強カフェ」へ経営方針を変更しました。

また、彼らは、現在も路上での生活を余儀なくされている子どもたちのべ 125 名へ、自分たちの経験を踏まえて、薬物の危険性や人間関係、教育の大切さを学ぶ研修を実施しました。研修を受けて、17 名の子どもが復学しました。

その他に、彼らは路上で生活をする子どもたちの現状を一般市民へ広く知ってもらい、理解をしてもらう啓発活動の一環として、「路上新聞」を約 5,200 部発行し、マニラの日本人学校と国立大学にてそれぞれ 2 回講演を実施しました。

「勉強カフェ」を利用する学生



研修を受ける子どもたち



団 体 名：特定非営利活動法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会  
助成活動名：最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業  
活 動 地 域：カンボジア王国 シェムリアップ州バンテッスレイ郡ルムチェック村  
団 体 本 部：〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 多摩川幼稚園内  
HP アドレス：https://www.asap-cambodia.org/  
設 立：2006年

カンボジアの農村部では、都市部に比べると貧しく、現金収入がほとんどない家庭が少なくありません。子どもは小学校に入学しても、貧困により途中で辞めることもあります。しかし、貧困の連鎖から抜け出すためには子どもの教育が重要と考え、お金があれば子どもに教育を受けさせたいと願う貧困層の親は多くいます。

当団体のカンボジアでの活動は、2007年に小学校へ校舎を寄贈することから始まりました。2009年からは、最貧困家庭の母親が子どもの教育費用を自分で稼ぐことができる様、「Mother to Mother」という活動を開始しました。これは、裁縫が苦手な日本の母親に代わって、カンボジアの貧困家庭の母親が日本の幼稚園や小学校で使う布製品を手縫いで作り、日本国内の幼稚園や小学校等の施設で販売をする活動です。

今年度は、日本国内の50施設で布製品を販売し、約375万円の売上げとなりました。

また、観光シーズンには多くの人々が訪れるシェムリアップにある土産店6店舗でも販売をしました。両国の売上げで、現在働いている24名のカンボジアの母親へ、年間で1名あたり平均251ドルの報酬を支払うことができました。

その他に、活動地域にある6ヶ所の小学校にて、新一年生へ手縫いの通学リュック258枚を無料で配布しました。

縫製作業の様子



手縫いの通学リュック



団 体 名：特定非営利活動法人 国際開発フロンティア機構

助成活動名：農村女性のモリンガ栽培普及と加工利用並びに伝統食ロンガニーサ作りの  
ソーシャルビジネス化による収入向上と食・栄養改善

活 動 地 域：フィリピン共和国 アルバイ州ギノバタン町マカッシリ村、ティウイ町ホ  
ロワン村

団 体 本 部：〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-6-5-1008

HP アドレス：http://idfo.web.fc2.com

設 立：1981年

アルバイ州は、マニラ経済圏から離れていることから住民の多くは雇用機会や収入源に恵まれず、フィリピンの中でも最貧困地域とされています。また、台風の常襲地域であり、かつマヨン火山の難民が多く生活をしています。

当団体は、アルバイ州ギノバタン町に、農村と農業開発の活動拠点として農村開発研修センターを1981年に建設し、現在は主に貧しい農村の女性たちの収入向上と、村人たちの栄養改善のため、豊富な栄養を持ち合わせている植物モリンガの栽培普及と加工食品への利用、また、フィリピンの伝統豚肉加工食品であるロンガニーサ（ソーセージ）作りに取り組んでいます。

今年度は、モリンガと、ロンガニーサ（ソーセージ）の普及活動のため研修を10回実施し、のべ83名が参加しました。モリンガは栄養価の高い野菜であるという認識が高まり、マーケットでの販売は、昨年度の3店舗から8店舗へ増えました。価格も昨年度に比べると1束1.5倍～2倍で売られ、換金作物として普及しました。また、粉末加工したモリンガを蒸饅頭に混ぜ、国道沿いにある店舗で売り始めました。

ロンガニーサ（ソーセージ）においては、粉末加工したモリンガを混ぜた商品を開発し、昨年度は村だけの販売でしたが、今後は町でも販売できるよう計画をしています。

さらに、両事業で役立つため、乾季でも水が得られるよう井戸を掘りました。

マーケットで売られるモリンガ



開発したロンガニーサの新商品



団体名：特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか  
助成活動名：村の女性の自立支援とともに村人・子どもの栄養改善  
活動地域：ネパール連邦共和国 ジャナクプール県シンズリ郡ドダウリ村  
団体本部：〒560-0021 大阪府豊中市本町 3-3-3  
HPアドレス：<http://tifa-toyonaka.org/>  
設立：1985年

ネパールではヒンズー教の影響で男尊女卑の風習や、カースト制度が残っています。近年の急速な貨幣経済への変化の中で、収入を得る手段のない女性は家庭内でも地位が低くなっています。

当団体は1994年から首都カトマンズから遠く離れたジャナクプール県シンズリ郡の農村部において、特に地位の低い女性たちの自立と、村全体の生活改善を目指し、支援を実施してきました。女性・子どもへの識字教育、縫製や手芸等の職業訓練、孤児のための寄宿舎の運営、住民のための診療所の運営等を、2012年からは、女性が収入を得るための縫製やキルト工芸の技術指導を実施しています。

今年度は、日本から縫製とマーケティングの指導者を現地へ派遣し、縫製やキルト工芸の活動を今後は現地の人たちだけで継続運営できるようリーダーを育てました。リーダーが原価の計算をし、製作者たちへ利益を配分できるようにし、さらに、自分たちで新製品を開拓し、日本だけではなくインターネットや、首都カトマンズの土産店で販売できるよう販路を拡大しました。

また、現地の小学校への給食支援では、子どもたちは給食をととても楽しみにしていて、そのお陰で子どもたちの登校率が良くなりました。それにより、この活動の効果が現地政府に認められ、今年度から給食代が支給されることになりました。

キルト工芸の様子



小学校の給食の様子



団 体 名：特定非営利活動法人 国境なき子どもたち  
助成活動名：ストリートチルドレンを対象としたドロップインセンター事業  
活 動 地 域：バングラデシュ人民共和国 ダッカ管区ダッカ市ケラニゴンジ  
団 体 本 部：〒161-0033 東京都新宿区下落合 4-3-22  
HP アドレス：http://knk.or.jp  
設 立：1997年

バングラデシュは近年高い経済成長率を達成し、貧困率は減少にありますが、富裕層と貧困層で収入による不平等が拡大しています。ストリートチルドレンはバングラデシュ全土で100万人以上、首都ダッカだけでも30万人いると言われています。ストリートチルドレンの多くは家庭に貧困や虐待等の問題を抱えて路上での生活を始めます。路上での生活は住居環境や食事の不衛生で、さらに、暴力や犯罪と隣り合わせです。また、学校に行くことができないため、職を得ることも難しく、本来であれば家庭で教わるような規律や善悪の判断を身に付ける機会もありません。

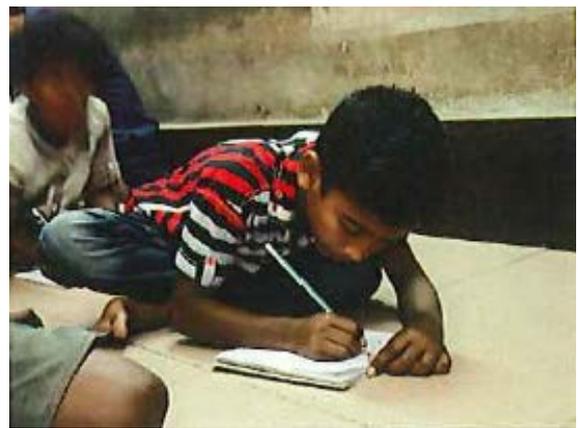
このような状況を受け、当団体は2011年にストリートチルドレンを支援する「ほほえみドロップインセンター」を首都ダッカに開設しました。今年度、のべ6,691名のストリートチルドレンがこのセンターを訪れました。栄養バランスの取れた食事、読み書きや計算だけでなく、生活に必要な知識を提供しました。また、彼らが自分の身を守るための知識を学ぶライフスキルセッションも実施しました。

彼らへの直接の支援だけでなく、彼らと関わることの多い雇用主ら大人たちに対しても彼らの権利や、彼らの身近にあるリスクについて理解を深める啓発活動を実施しました。このような活動を継続することにより、雇用主による虐待や暴力が減り、地域の大人たちの意識が変化し、彼らを見守るようになりました。

朝食をとる子どもたち



勉強をしている子どもたち



団体名：特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会  
助成活動名：バングラデシュ・ダッカにおける家事使用人として働く少女支援プロジェクト  
活動地域：バングラデシュ人民共和国 ダッカ市  
団体本部：〒169-8611 東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内  
HPアドレス：<https://www.shaplaneer.org/>  
設立：1972年

首都ダッカには家事使用人として働く少女が 33 万人いると言われています。

彼女たちは、料理、掃除、洗濯、子どもの世話、買い物等に朝早くから夜遅くまで追われて、長時間働き、学校に通い教育を受ける機会を奪われています。そして、閉ざされた家庭内で働いていることから、雇用主から暴力を受けることもあり、過酷な状況のもとで、とても弱い立場にあります。

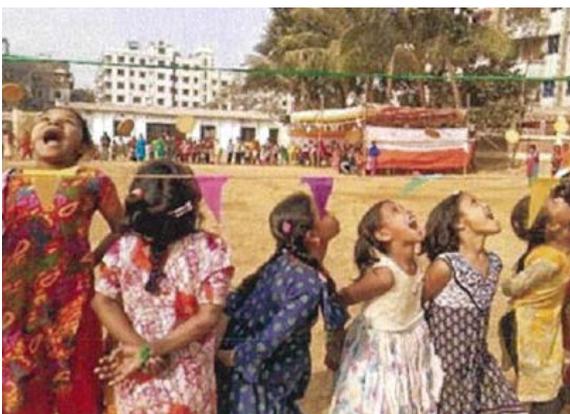
2015 年 12 月には、当団体を初めとする NGO や人権団体等の働きかけによって、バングラデシュにて 14 歳未満の少女を家事使用人として雇うことを認めない政策が打ち出される等、家事使用人という、見過ごされてきた存在に目が向けられ始めました。

当団体は、家事使用人として働く少女が減ることを目的にヘルプセンターをダッカ市内に 3ヶ所開設しました。各センターでは、簡単な読み書きや計算等の基礎教育を提供しています。

今年度は、各センターへ合計 88 名の少女が通い、そのうち 75%以上の少女が簡単な読み書きや計算ができるようになりました。また、14 歳以上の少女へは刺繍やアクセサリー製作等の職業訓練を実施し、少女たちが新しく身に付けた技術は家事使用人として働く雇い主宅でも活かされました。

さらに、各センターの地域が主催するスポーツ大会では、保護者や雇い主だけではなく、多くの地域住民が参加し、活動を知ってもらう機会となりました。

スポーツ大会の様子



縫い物をする少女たち



団 体 名：特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

助成活動名：インドネシア東スンバ島の低収入農家のための有機農業技術支援および給水設備整備事業

活 動 地 域：インドネシア共和国 東ヌサトゥンガラ州東スンバ県モンドウランビ村

団 体 本 部：〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-2-2 東京三和ビル 503

HP アドレス：<http://earth-ngo.jp/>

設 立：1986 年

バリ島から飛行機で1時間程の場所にあるスンバ島の東スンバ県の農村部では、電気、ガス、水道が整備されておらず、電波も届きません。また、舗装された道路もなく、バス等の交通手段もありません。現金収入がほとんどない村人たちは、医療費や子どもの教育費でお金が必要な時は、飼っている鶏、豚、山羊等の家畜や卵を販売して暮らしています。町から遠く離れ、丘と谷に隔絶され、情報も届かない村に暮らす人々だけでは貧困を克服することはできません。東スンバ県では、このような過酷な場所で暮らす村人が十数万人います。

このような困窮した村人が現金収入を得られるように、当団体は現地の NGO と協力して、有機肥料を利用した野菜作りを村人たちへ教えて支援をしています。

今年度はモンドウランビ村で、野菜作りに必要な水を汲み上げるポンプを川に設置し、このポンプを利用して、17名の村人へ野菜作りの技術指導を実施しました。研修では、種まき、育苗、苗の畑への移し替え、水やりや草むしり等を学びました。また、家畜のフンや村にある植物を使って、有機肥料や有機防虫剤の作り方も学びました。

研修中には、チンゲン菜、白菜、トマト、唐辛子、スイカ、玉ねぎ、小松菜等が収穫でき、合計 81,800 円の売上げとなりました。

現在の主な販売先は、八百屋と周辺の村人ですが、今後は、ホテルやレストランへも販路を広げていく予定です。

栽培した白菜を収穫する様子



有機肥料の作り方を学ぶ様子



団 体 名：特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター  
助成活動名：ガザ地区中部における子どもの栄養失調予防及び地域保健促進員の研修事業  
活 動 地 域：パレスチナ暫定自治区 ガザ地区 マカジ・ブレイブ市、ヌセイラット市、  
デル・アル・バラフ市  
団 体 本 部：〒110-8605 東京都台東区上野 5-3-4 クリエイティブ One 秋葉原ビル 6F  
HP アドレス：<http://www.ngo-jvc.net/>  
設 立：1980 年

ガザ地区では 2007 年から続く封鎖と度重なる軍事攻撃により経済やインフラが麻痺し、住民の 8 割が何らかの援助を受けている状況です。国連等の国際団体によって食糧配布もなされていますが、カロリー重視で十分に栄養バランスが考慮されていないため、特に子どもが栄養失調になるケースがあとを絶ちません。

また、ガザ地区の中でも中部は特に貧困層が多く、子どもたちの栄養失調にかかる疫病の割合は平均より 5~10%高くなっています。

当団体は、そういった状況を改善するため、現地の NGO と協力して 2017 年からガザ地区中部にて子どもの栄養失調予防事業を開始しました。

今年度は、地域で子どもの健康を守るために活動する女性ボランティア 40 名を対象に、栄養と子どもの成長に関する研修を実施しました。研修を受けた女性ボランティアたちは、現地の NGO の保健指導員のもと家庭訪問をし、3 歳以下の子ども 1,033 名を対象に健康調査をし、フォローアップが必要な子どもには改善のため検診を実施しました。

また、その母親と家族に対し、栄養や保健に関するカウンセリングを 211 回実施しました。さらに、栄養教育のための調理実習を 48 回、のべ 764 名へ実施し、そのうち男性向けに実施した講習では 55 名が参加しました。

健康調査をする様子



調理実習の様子



団 体 名：特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

助成活動名：アナイコット村、有機農業研修センターにおける女性利用者を配慮した施設改修工事

活 動 地 域：ネパール連邦民主共和国 カブレパランチヨーク郡アナイコット村

団 体 本 部：〒247-0055 神奈川県鎌倉市小袋谷 2-2-39 ハーベストムーン 105 号室

HP アドレス：<http://www.lovegreenjapan.org/>

設 立：1991 年

当団体は 2009 年に総合的に農業を学ぶことができるよう、カブレパランチヨーク郡アナイコット村に有機農業研修センターを建設しました。このセンターでは、作物ごとに適切な種まきの時期、畑の土壌の質、害虫・益虫の見分け方、牛の尿やその土地にある植物等身近な資源を活用した有機肥料作りや有機農薬作りを体系的な研修で学ぶことができます。当団体が推進する IPM 農法（Integrated Pest Management: 総合的害虫・雑草管理）は、農薬と化学肥料をできるだけ使用せず、害虫や益虫を見分け、工夫して自然の働きを利用する農業です。以前、近隣の農村では農薬や化学肥料によって土壌汚染が進んでいましたが、近年、ネパールでは IPM 農法のように農薬と化学肥料をできるだけ使用しない農業への関心が高く、このセンターを利用する人が増えてきています。

今年度は遠方から研修を受けに来る人を受け入れるため、8 室の宿泊設備を整備し、女性の利用者も多いことから、トイレを 2 ヶ所とシャワー室を 3 部屋増築しました。

また、女性の利用者が現金収入を得るため、IPM 農法で栽培した野菜を使って加工食品を作ることができるよう調理場を併せて整備しました。調理場が整ったことにより、加工食品作りの研修や保健衛生の研修を実施しました。

今後は、活動地域の特産物を使ったジャムや干し柿等の加工食品の販売を目指していきます。

有機農業研修センターの外観



整備された調理場の様子



団 体 名：公益財団法人 オイスカ

助成活動名：マグウェイ地域の農村地域の住民のための小規模養豚の品質向上並びに普及プロジェクト

活 動 地 域：ミャンマー連邦共和国 マグウェイ地域パコック県エサジョ郡

団 体 本 部：〒163-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5

HP アドレス：<http://www.oisca.org/>

設 立：1969 年

当団体は 1997 年に環境条件が厳しく貧困度の高いミャンマー中央部乾燥地域に、農業技術指導や環境保全の研修を実施することを目的に農村開発研修センターを設立しました。

2002 年からは、農村地域の土地を持っていない貧困層の生計のため、養豚の研修を開始し、当センターで生産した子豚を養豚目的で周辺の農村地域へ販売をしています。これまでに 400 名以上の農村地域の青年が技術研修を受けました。

今年度は、より多くの貧困層が養豚に取り組めることを目指し、子豚の生産を増やすため、外部から良質な種豚を 3 頭購入しました。この種豚を使って生産を開始し、その結果、子豚を 169 頭生産することができました。

また、当団体の活動地域である 75 村のうち、各村で養豚に取り組む意欲のある代表者 2 名（計 151 名）を対象に子豚の繁殖、生産管理方法の研修を実施しました。研修後は、研修を受けた人たちを巡回し、子豚の生産管理方法の確認と指導をしました。

さらに、当センターの豚舎が老朽化していたため、屋根の張り替えや、より衛生的な環境のため、豚舎内のエサ場と排泄場の間に壁を整備しました。豚舎の分娩室は、以前は木で枠組みを作っていましたが、豚が牙で木の柱を壊してしまうため、新たに鉄筋で枠組みを整備しました。

農村地域の養豚農家



専門家による研修の様子



団 体 名：公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会  
助成活動名：ミャンマーにおける児童図書出版活動  
活 動 地 域：ミャンマー連邦共和国 ヤンゴン（研修、出版）、全県（配架先）  
団 体 本 部：〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2、3 階  
HP アドレス：http://sva.or.jp/  
設 立：1981 年

ミャンマーでは、民主化・経済発展が進む一方で、教育面では軍事政権下で行われていた暗記中心の教育方法が根付いており、子どもたちは自分で考えるスキルを養いにくくなっています。国は、教育制度の改革を実施していますが、実際の現場では長年の教育方法を変えるのは簡単ではなく、未だに課題が残っています。

このような教育環境を改善するため、当団体は絵本や読書を通じて、子どもたちが文字の読み書きを学ぶだけでなく、創造する力や考える力を身に付けていくことを目指し、子どもたちに質の高い児童図書を提供する活動をしています。

ミャンマーでは、漫画や扉絵の入った本はありますが、子ども向けの絵本や児童図書が不足しています。今年度は、日本から専門家を派遣し、児童図書出版に携わる作家、イラストレーター、編集者が良質な図書を作成するための知識と技術を学ぶ研修を実施しました。終了後は、学校にて参加者が研修中に作成した作品の読み聞かせを行いました。

さらに、4種類の児童図書を各7,000冊出版し、公立の学校、寺院、全国の公共図書館等合わせて2,447ヶ所に配架しました。配架された児童図書は、学校の授業で活用され、また、公共図書館では職員による読み聞かせをする予定です。

完成した図書を読む子どもたち



読み聞かせの様子



団 体 名：特定非営利活動法人 地球市民の会  
助成活動名：ミャンマー・シャン州の農村における安定した水利用の実現と衛生環境改善事業  
活 動 地 域：ミャンマー連邦共和国 シャン州ピンラウン郡ナウンタヤーサブタウンシップ  
団 体 本 部：〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町 3-10  
HP アドレス：http://terrapeople.or.jp/main/  
設 立：1983 年

シャン州では6月半ばから9月半ばまでの3ヶ月間が雨季、9月半ばから2月末までの5ヶ月半が乾季、3月から6月半ばまでの3ヶ月間が暑季となり、乾季と暑季の間は降水量がほぼゼロとなります。

さらに、水源の水量が少なく、地域全体の大規模な給水設備がないため、それぞれの集落が村人の自己負担で配管や深井戸の整備を実施してきました。

しかし、自己負担による整備では資金に限りがあり、集落まで水が届いているものの、水を貯めるタンクの整備までは手が回っていません。現状では水は貴重なものであるため、必要最低限のことにしか使えず、衛生環境が悪化します。

今年度、シャン州の4ヶ所の村にて村人が年間を通して十分な水を使用できるように、貯水用タンクを建設しました。建設では、専門的な部分は近隣村の職人が担い、専門性を必要としない部分では、村人が参加しました。同時に、衛生的な環境を保つため、手洗い、うがい、歯磨き、トイレを流す等の基本的な保健衛生研修を各村で実施しました。

また、「給水施設維持管理委員会」を各村で立ち上げ、給水施設の維持管理の方法、それにかかる費用をどのように賄っていくかを話し合い、継続して使用していける体制を整えました。

貯水用タンクを建設する村人



完成した貯水用タンク



## 「NGO講演会等助成レポート」について

NGO海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けているNGOが、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該NGOの海外での活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

概要は次のとおりです。

○助成する金額は、講演会等1回につき所要経費のうち5万円を上限とします。

ただし、助成回数は1団体につき1年1回。

○助成の対象とする団体は、NGO海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金配分を平成23年度から平成26年度に受けている団体です。

○助成の対象となる講演会等は、次のとおりです。

- ・参加者（児童・生徒等を含む）が概ね30人以上見込まれる講演会等であること
- ・平成30年4月から平成31年2月末日までに開催する講演会等であること

○平成30年度は8団体へ助成いたしました。

## 特定非営利活動法人ラブグリーンジャパン

1. 開催日：平成30年6月28日（木）12時00分～14時30分
2. 開催場所：横浜国立大学 法学研究棟2階201教室
3. テーマ：「ネパールにおけるNGO活動の現状」
4. 講師：相川 政夫（当団体理事長）
5. 参加者：22名
6. 内容：①ネパールにおけるNGO活動の現状（ネパール政府の対応政策等）  
②カブレ郡、アナイコット村におけるゆうちょ財団事業の現状と対応  
③これからのNGO活動で目指す目的、住民サイドへの対応策等  
④ネパール人留学生からの意見&質疑応答によるディスカッション

### 講演会内容

#### ■講演概要

横浜国立大学国際社会科学研究院小林誉明准教授のゼミ生を中心に参加者を集めることになり、その他の学生にも呼びかけをしました。当団体のフェイスブックを見て出席した人は2名でした。また、ゆうちょ財団より2名参加。

当会の説明とネパールにおける今までの事業、現在の事業について説明。ゆうちょ財団の事業を説明。最近のネパール政府の事情やNGOを取り巻く現時点のネパールの状況等説明、質問を受ける。

後半は海外でNGO活動をする上での問題点等、学生たちと意見交換、ディスカッションをする。

#### 講演①

当団体の相川理事長によるパワーポイントを使ってネパールにおける事業等現場からの活動報告説明（ゆうちょ財団事業の説明含む）、参加者から質問を受ける。

学生たちのネパールにおける貧困対策の取り組みについての質問を受ける。開発事業を作成&実施には現場のカウンターパートとの信頼関係が重要であることを説明、確認。今後は当団体として学生への助言等相談にのること、ネパール訪問時の協力も提案する。

#### 講演②

学生から海外でNGO活動を実施する上での心構え等について質問があり、ネパール人の日常的な気質等、ネパール人、サンガットさんの意見を聞きながら今後の活動についての注意事項等を懇談する。

小林ゼミのネパールでの取り組みに今後は当団体からも意見等をしていくことを約束する。

長期にわたるNGO活動を継続することから見えてくる信頼関係が援助する側の位置づけでも重要であることを説明。学生たちにはそうした事業を継続することが、今後どのように彼らに影響を与え、展開していくかを期待したい報告、講演会であった。

#### ■参加者の感想

- ・とても為になる講演でした。ありがとうございます。
- ・実際にしている人のお話を聞いてイメージができました。
- ・機会があったら事務所を訪問して話を聞きたいです。
- ・日々の活動について、詳細は大変興味深いものと思った。スライド、写真が多くわかりやすかつ

たです。

- ・国際協力分野で NGO が活躍していることは知らなかった。今回、報告会でネパールの文化、自然について興味がわいた。
- ・以前からラブグリーンジャパンの活動は知っていたが詳しい話を聞く機会は貴重であり、興味深い内容でした。

#### 当財団の NGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

- 支援活動：アナイコット村、有機農業研修センターにおける女性利用者を配慮した施設改修工事
- 実施期間：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月
- 実施地域：ネパール連邦民主共和国アナイコット地区

①「講演会の様子」



②「講演会の様子」



③「講演会の様子」



## 特定非営利活動法人日本ハビタット協会

1. 開催日：平成30年8月24日（木）16時00分～17時30分
2. 開催場所：JICA地球ひろば セミナールーム201AB
3. テーマ：「1日3食プロジェクト報告会～栄養のある給食をラオスの子どもたちに届けるための挑戦～」
4. 講師：太田 祥香（当団体プロジェクト担当）
5. 参加者：28名
6. 内容：助成事業である1日3食プロジェクトの報告会を実施し、成果や今後の課題について報告する。参加者が、主体的に考えられるよう報告だけでなく、グループワークを支援、問題を掘り下げていく。

### 講演会内容

#### ■講演概要

当団体が実施している1日3食プロジェクト（ラオス国ルアンパバン県の学校における生活環境改善事業）を紹介した。夏休み期間であるため、学生の参加者を見込み、日本の学校生活では身近な給食というトピックから、ラオスの子どもたちの生活、貧困問題について考え、国際協力への興味、関心を深める場を提供することを目指した。また、単に給食を提供するだけでなく、学校による安定供給を目指すというこのプロジェクトの特色を紹介し、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、今後の途上国支援の在り方について、参加者が考えを深められるように心がけた。

#### ■プログラム詳細

- 16：00－16：25 アイスブレイキング「思い出の給食」
- 16：25－16：55 活動報告「1日3食プロジェクト」
- 16：55－17：20 グループワーク
- 17：20－17：30 まとめ

プロジェクトの最新の様子を報告した。その上で、グループワークとして「もしも給食がなかったら？」をテーマに、①給食がなかったらどんなことが困るか②給食がないという状況になってしまう原因はどんなことが考えられるか③自身が考える解決法についてそれぞれ考えてもらい、グループ内で意見を交換し、考えを深められるようにした。学生の参加も多かったが、10代～60代までの幅広い参加者があり、年代を超えて、給食に関するいろいろな思い出を語り合い、参加者は、様々な角度から議論を深めることができていた。参加者の中には給食がないことによる問題を、栄養不足だけでなく、学力の低下や児童労働に結び付け、食育等にもつなげて考えていたのが印象的であった。

#### ■報告者：太田 祥歌（当団体プロジェクト担当）

活動報告の内容は、当団体が2016年からラオス国ルアンパバン県で実施してきたプロジェクトの取り組み内容、成果、今後の課題を中心に報告した。また、ゆうちょ財団の助成により整備したパクセン中学校の給水設備により、養鶏が可能となっただけでなく、学校での子どもたちの衛生環

境、水の使用状況等の生活環境が改善したことについても報告し、参加者からも学校における生活環境改善に総合的に取り組んでいる点を評価する声が上がった。

#### ■参加者の感想

- ・1日3食プロジェクトが学校の衛生環境や生活環境の改善につながっているというのが大変興味深かった。
- ・1日3食プロジェクトが食べ物（給食）のみならずトイレや水の設備、技術の提供等広範囲で学校の状況を変えていることがすごいと思った。
- ・子どもたちにとって、食がどれだけ重要かを知るきっかけになった。途上国への支援活動に参加してみたいと思っていたので、参考になった。
- ・住民に考えてもらう、子どもたちが譲り合う、仕組みづくりをするという発想が素晴らしいと思う。
- ・説明がわかりやすかった。参加者から質問がいくつか出たり、参加型の講演会になっていたり、興味深かった。グループワークについても、今後の参考になった。

#### 当財団のNGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

■支援活動：ラオスのルアンパバン県の学校における生活環境改善事業

■実施期間：平成29年5月～平成30年3月

■実施国及び地域：ラオス人民民主共和国ルアンパバン県

#### ①「アイスブレイキングの様子」



#### ②「グループワークの様子」



#### ③「グループワークの様子」



## 特定非営利活動法人リボン・京都

1. 開催日：平成30年9月11日（火）15時00分～16時30分
2. 開催場所：当団体事務所
3. テーマ：ルワンダ事業のフォローアップとフェアトレード報告会
4. 講師：小玉 昌代（当団体理事長）
5. 参加者：13名
6. 内容：講演①「ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告」  
講演②「フェアトレード作品の紹介」  
講演③「ルワンダ訓練生のその後の進路について」

### 講演会内容

#### ■講演概要

#### 講演①ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告

最初にルワンダで起きたジェノサイドの歴史、貧困率の高さといった課題等から現地における職業訓練の必要性を説明した。ガチュリロ職業訓練校で洋裁指導を行っている写真を見せながら、活動紹介を行った。短期フォローアップ指導の結果、作品の完成度が上がり、修了生自らがデザインした洋服が商品化される等、大きな成果が見られたことを報告した。

#### 講演②フェアトレード作品の紹介

ルワンダからフェアトレードで送られてきたブルゾン、トレンチコートといった実物の作品を参加者に手に取って見て頂いた。

#### 講演③ルワンダ訓練生のその後の進路について

2018年3月に訓練生にアンケートを取り、当団体の指導後も訓練生の7割以上が洋裁関係の仕事につき、収入金額は平均約2.4倍に増加したことを報告した。また、日本人の指導により時間を守る習慣が身に付き、職場の上司や顧客から信頼されるようになった、という声もあり、洋裁技術だけではなく日本人の仕事に取り組む姿勢を学んでもらえる経験にもなった。

#### ■参加者の感想

- ・実際にフェアトレードで送られてきた作品も見ることができ、分かりやすかった。
- ・とても良かった。

#### 当財団のNGO海外援助活動助成又は国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

- 支援活動：「ルワンダ共和国キガリ市でのフェアトレード事業と洋裁訓練フォローアップ指導」
- 実施期間：平成29年7月から平成29年12月
- 実施地域：ルワンダ共和国キガリ市

① 「講演会のチラシ」



② 「ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告」



③ 「ルワンダにおけるフォローアップ事業の活動報告」



## 特定非営利活動法人国境なき子どもたち

1. 開催日：平成30年9月15日（土）14時00分～15時30分
2. 開催場所：アイテムフォトギャラリー「シリウス」
3. テーマ：国境なき子どもたち写真展2018 Class Rooms  
～子どもとしての時を過ごす場所～ ギャラリートーク
4. 講師：清水 匡（当団体理事）  
渡辺 真理（アナウンサー）
5. 参加者：78名
6. 内容：当団体の清水匡理事が長年にわたりカンボジアやフィリピン等の支援各国で撮影した写真を展示した当団体の写真展2018。その開催期間中の土曜日に、フリーアナウンサー渡辺真理さんを司会にお迎えし、清水と二人でギャラリートークを行いました。

~~~~~

### ■講演概要

当団体にて20年、海外の活動地を訪れ出会ってきた多くの子どもたちについて、当団体の清水匡理事が展示写真を章ごとに解説しながら、渡辺真理さんとフリートークを実施。カンボジアやフィリピン、パキスタン等の支援事業地について話しました。

- 14:00 開始（司会：渡辺 真理）
- 「第一章 通学」
  - 「第二章 私たちの学校」
  - 「第三章 僕たちの教室」
  - 「第四章 自立を目指して」
  - 「第五章 子どもとして過ごす時間」 フリートーク／清水匡
- 15:20 質疑応答
- 15:30 終了

- ・身振り手振りで接しながら、何年も通い続け、彼らの成長を撮影してきた中で見えてきたこと
- ・現在は成長して一家の主となり、仕事に励む青年たちが、まだ若かりし頃のこと
- ・写真展タイトル「Class Rooms ～子どもとしての時を過ごす場所～」への想い
- ・学校に行かず路上で暮らしている子ども、学び舎がなく青空教室で勉学に励む子ども
- ・途上国の子どもたちが学校に通うことは、日本にいる私たちが想像する以上に困難
- ・1日にわずかでも勉強のための時間を割くことができれば、たとえ学校に通わなくてもそこが子どもたちの「教室」

小雨振る三連休の初日にもかかわらず、お子さん連れや、ご高齢の方々まで幅広い層の方にご参加いただきました。

## ■参加者の感想

- ・現地に溶けこんでいる方の写真を、秘話と共に拝見でき、とても感動しました。ありがとうございました。渡辺真理さんの進行も心地がよく、貴重な時間を共有できたこと、幸せでした。
- ・過酷な状況におかれていることもたちの様子を、現地の様子を知っているスタッフから聞けることは意義あることでした。
- ・普段全く知らない地域の現実がよくわかりました。

## 当財団の NGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

■支援活動：スラム地域における教育支援・子ども保護事業

■実施期間：平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月

■実施地域：フィリピン共和国マニラ首都圏内カロオカン・ノース市に位置するバゴンシーラン地区及パヤタス地区

①「熱心に耳を傾ける聴講者たち」



②「講師：渡辺真理さん(左)と清水匡理事(右)」



## 特定非営利活動法人アジアの子どもたちの就学を支援する会

1. 開催日：平成 30 年 9 月 28 日（金）
2. 開催場所：多摩川幼稚園 中ホール
3. テーマ：「今なお続くポルポト政権の爪痕」、「カンボジアの教育支援の現状」
4. 講師：①大沼 陽子（当団体副理事長）  
②Ke Vira（カンボジア支援校校長）  
③Kulab Thok（カンボジア支援校教員）  
④Chanbopha Heng（カンボジア通訳兼サポーター）
5. 参加者：40 名
6. 内容：カンボジアから研修で 2 名の教員と 1 名の通訳兼サポーターを日本に招聘するの  
合わせて講演会を開き、当団体からは「カンボジア支援活動内容」、カンボジア人  
からは「カンボジアの現状と当団体の支援」について話してもらう。

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演①「今なぜカンボジアに教育支援なのか」講師名：大沼 陽子（当団体副理事長）

カンボジアに小学校校舎を一棟寄贈したことから始まった当団体の「支援活動のきっかけ」「教育者だから見えた継続支援の必要性」「支援内容」「貧困家庭への持続可能な経済支援 Mother to Mother 活動」についての説明を行った。

講演②「両親の体験から見えた私のなすべきこと」

講師名：カンボジア通訳兼サポーター Chanbopha Heng

ポルポト政権時代は子どもだったため、知識人の虐殺の難を逃れた両親から聞いた話、政権崩壊後教育の大切さを知る両親が学校に行かせてくれたため今があるという自身の体験、また、発足当初から当団体の通訳をしてきた立場から見た当団体の活動の様子、ゆうちよ財団助成の「Mother to Mother」活動の様子等を語った。

講演③「ポルポト政権の爪痕」講師名：カンボジア支援校校長 Ke Vira

教育という視点からみたポルポト政権後の国の歩み、赴任先コールタメイ村に当団体の支援で小学校が誕生しその後中学校、高等学校が誕生するまでの様子等を語った。

講演④「当団体による教育支援の効果」講師名：カンボジア支援校教員 Kulab Thok

自身が子どもの頃の学校の様子、先生になって戻った時の学校の様子、当団体の支援が入ってから  
の学校の様子、「Mother to Mother」活動の様子等を語った。

#### ■参加者の感想

- ・ポルポトの影響等ほとんど知らなかったので聞けて良かった。
- ・継続した支援の必要性がよくわかった。
- ・自分でも何かできることがあったらしようと思った。

- ・活動に参加したい。
- ・カンボジアの学校ではどんな勉強をしているか等もう少し知りたかった。

**当財団の NGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要**

■支援活動：最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業

■実施期間：平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月

■実施国及び地域：カンボジア王国シェムリアップ州

①「カンボジアの先生達と」



②「講演会の様子」



③「同時開催絵画展の様子」



④「同時開催マザー製品販売の様子」



## 特定非営利活動法人パルシック

1. 開催日：平成30年10月1日（日）18時30分～20時30分
2. 開催場所：サロンド・富山ティールーム Folio
3. テーマ：紅茶のフェアトレードから考える～SDGsの時代に私たちができること
4. 講師：①長坂 寿久（財団法人国際貿易投資研究所/客員研究員、逗子フェアトレードの会/共同代表理事）  
②高橋 知里（当団体職員、元デニヤヤ駐在員）
5. 参加者：42名
6. 内容：①新『国際フェアトレード憲章』とSDGs  
②スリランカにおける紅茶産業と小規模農家の挑戦と課題

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演①：新『国際フェアトレード憲章』とSDGs

講師名：長坂 寿久（財団法人国際貿易投資研究所/客員研究員、逗子フェアトレードの会/共同代表理事）

2018年9月25日に発表された「新国際フェアトレード憲章」およびフェアトレードに対応しているSDGsの項目を指標ごとに細分化して、解説した。商品の買い物やフェアトレードタウン運動への参加等を通じた市民一人一人の関わり方も案内された。

講演②：スリランカにおける紅茶産業と小規模農家の挑戦と課題

講師名：高橋 知里（当団体職員、元デニヤヤ駐在員）

スリランカ南部で2011年から取り組んできた小規模農家による紅茶の有機栽培転換事業の報告をした。堆肥づくりやバイオガスの活用につき、導入から複数年たった今、直面している課題と今後の計画について最新の現場の様子を伝えた。

#### ■参加者の感想

- ・開発途上国の現状を通して日本の食や農業について考え直す機会になりました。食や農というキーワードは先進国、途上国問わず、世界中共通のテーマ課題であるため、国の垣根を越えて一人一人ができることをやってみればよいと思いました。
- ・経験に裏打ちされたすてきな報告でした。“長い努力が必要”と教えていただきました。

#### 当財団のNGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要

■支援活動：農業協同組合の組成及び運営指導（H23年度実施）、紅茶有機栽培農家のための共同出荷組合拡大及び運営指導（H24年度実施）

バイオガス消化液を液肥として活用した有機紅茶栽培（H27年度実施）、小規模農家による紅茶の有機栽培の生産性向上支援（H28年度実施）

■実施期間：平成23年4月から平成25年3月、平成27年4月から平成29年3月

■実施地域：スリランカ民主社会主義共和国マータラ県デニヤヤ郡

① 『スリランカにおける紅茶産業と小規模農家の挑戦と課題』を報告している様子」



② 「紅茶を飲みながら報告を聞く会場の参加者の様子」



③ 「講師2名が参加者の質問に応じている様子」



## 特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会

1. 開催日：平成30年11月10日（土）14時00分～16時00分
2. 開催場所：早稲田奉仕園 You-I ホール
3. テーマ：ラジオで変える・バングラデシュで働く子どもの未来
4. 講師：猪瀬 絢子(当団体バングラデシュ前駐在員)、日下部 尚徳(東京外語大学講師)
5. 参加者：42名
6. 内容：講演

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

バングラデシュ前駐在員の猪瀬絢子職員より、当団体が2006年からバングラデシュの首都ダッカで取り組んでいる家事使用人の少女たちの支援について報告した。当団体では家事使用人として過酷な労働条件で働く少女たちに、基本的な読み書きや計算等を学ぶ機会を提供する支援センターの運営を現地NGOと協働で進めているほか、コミュニティラジオを用いた児童労働削減を呼び掛ける啓発活動により、社会への働きかけを行っている。コミュニティラジオを通じて働く少女たちの現状を伝えることで、ラジオのリスナーやラジオ局のスタッフに起きた変化等、インタビューを通して見えてきたことを具体的な事例を用いて紹介した。

その後コメンテーターの日下部尚徳さんより、NGOが支援をしていく上で必要なステップ（①物資を届ける、②問題を抱える当事者の課題解決能力を高める、③貧困を生み出す社会の仕組みを変える、④地球規模で社会を良くする）を紹介した上で、当団体の児童労働をなくすための取り組みがどのステップに該当するのか解説を加えた。また、文化・社会的背景を踏まえ、バングラデシュ社会における児童労働の現状についてコメントをした。

質疑応答の際には会場から多くの質問やコメントがあり、参加者と活発な意見交換を行うことができた。その他会場ではバングラデシュ、ネパールのフェアトレード商品の販売、バングラデシュの家事使用人の少女たちについて取り上げた書籍の販売を行った。

#### ■参加者の感想

- ・今回の講演会の参加者は年配の方が多く印象でした。長く生きて色々な経験をされた大人の話を聞いて、若い人が考えていけるような会であれば、もっと国際協力をしたいと思う人が増えるのかなと思いました。
- ・バングラデシュがどう変わってきたのか、何が変わっていないのかを伺えて良かったです。問題を解決することの難しさを感じ、モヤモヤしてます。これからもっともっと考えられたら良いです。
- ・満席で熱気ある会になり良かったと思います。実際的な支援をもっとしていくためにさらに発展してもらいたいと思いました。
- ・実際に現地で活動された方のお話を聞くことができ、とても貴重な機会でした。ぜひまた継続的に開催してほしい。
- ・現地の問題とその解決のための当団体の取り組みの必要性について理解できた。実際に現地で活

動された方のお話は説得力があり、理解しやすかったし、おもしろかった。

**当財団のNGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要**

■支援活動：バングラデシュ・ダッカにおける家事使用人として働く少女支援プロジェクト

■実施期間：平成26年4月から平成27年3月

平成29年4月から平成30年3月

平成30年4月から平成31年3月

■実施地域：バングラデシュ人民共和国ダッカ

①「猪瀬職員による講演」



②「日下部さんによる解説」



③「会場全体の様子」



## 特定非営利活動法人国際交流の会とよなか (TIFA)

1. 開催日：平成31年1月18日（金）14時00分～16時00分
2. 開催場所：とよなか男女共同参画推進センター「すてっぷ」視聴覚室
3. テーマ：ゆうちょ財団助成事業 TIFA ネパール支援活動報告会
4. 講師：①山本 愛（元ネパール日本大使館員、現とよなか国際交流協会事務局次長）  
②中園 敏也（会社社長、キルト販売アドバイザー）
5. 参加者：42名
6. 内容：①ネパール社会について  
②TIFA ネパールのネパール支援活動  
③ネパールの手作り品・キルト、ニット、ビーズ工芸、ダカ織等の展示

~~~~~

### 講演会内容

#### ■講演概要

講演①講師名：山本 愛（元ネパール日本大使館員、現とよなか国際交流協会事務局次長）

内容：1 ネパールの建国について 2 言語について 3 民族・カースト 4 女性の状況 5 女性運動の概要

ネパールの建国からの歴史と様々な言語が統一された経緯、女性がカーストや宗教、民族的な事情からの制限で教育・家庭の地位等差別されてきたことから、最近出てきた女性運動の様子等までわかりやすく説明された。

講演②講師名：中園 敏也（会社社長、キルト販売アドバイザー）

内容：最近のネパールの状況と活動

ネパールの女性たちが作った製品の販売をし、その売上金を現地にどう渡すか？

ネパールの女性たちが、頑張って働けるように、決められた製作料と報奨金を渡すことで激励する方法を考え順調に実践、また、奈良県立図書館での約1ヶ月実施する「ドダウリキルト」イベントを紹介。

震災地で作ったニット製品と震災で被害を受けた日本の東北とをつなぐ、ネパールで作ったニット帽子を東北で被災した老人施設や障害者学級の子どもたちへ送る活動の報告。

\*海野バティ (TIFA ネパールプログラムブンガマティ担当責任者)

震災で大被害を受けたカトマンズの近郊ブンガマティの女性の自立支援活動として、ニット製品作り(帽子、手袋、マフラー等)を援助し、販売を引き受けている状況の説明をした。

\*ネパール活動責任者 葛西美紗

ドダウリ村での活動、里親支援活動、給食支援活動は、まだ週1回しかできていないが、順調に進んでおり、子どもたち、家族から大変喜ばれている。体位向上、衛生教育等進行中。

#### ■参加者の感想

- ・ネパールの歴史や国の事を知らなかったのが、勉強になりました。どんな国なのか、国の成り立ち、女性の地位、政治・全体的なことを考えてネパールが見られるようになりました。カーストについてもっと知りたいです。
- ・支援することの意味、大切さを知ることができました。現地の女性たちの手作りニットや、キルト

トがもっと社会に知られたらよいと思う。

**当財団の NGO 海外援助活動助成又は旧国際ボランティア貯金の寄附金を受けた活動の概要**

■支援活動：ネパール農村部の女性の経済的自立に向けたリーダーの育成

■実施期間：平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月

■実施地域：ネパール連邦民主共和国ジャナクプール県シンズリ郡ドダウリ村

①「報告会の様子」



②「報告会の様子」



③「報告会の様子」



## 平成 30 年度 NGO 講演会等の助成アンケート集計結果報告書

### 【全体:153名回答】

Q1：開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体(NGO)が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回答内容		回答数	%
1	知っていた	134	88%
2	知らなかった	18	12%
3	未回答	1	1%

Q2：今日の講演を聞いて、内容について理解できましたか。

回答内容		回答数	%
1	よく理解できた	100	65%
2	まあ理解できた	48	31%
3	理解できなかった	1	1%
4	未回答	4	3%

Q3：今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回答内容		回答数	%
1	必要だと思う	147	96%
2	国同士で行うだけで十分	2	1%
3	分からない	3	2%
4	未回答	1	1%

Q4：今日の講演を聞いて、また「現地からの報告」を聞いてみたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	聞きたいと思う	135	88%
2	少し思う	15	10%
3	全く思わない	0	0%
4	未回答	3	2%

Q5：今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	すでにしている	72	47%
2	したいと思う	70	46%
3	特に思わない	7	5%
4	未回答	4	3%

Q6：今後もボランティア団体のこのような講演会を支援する助成活動事業は必要だと思いましたか。

回答内容		回答数	%
1	とても必要だと思う	110	72%
2	必要だと思う	40	26%
3	特に思わない	1	1%
4	未回答	2	1%

年代別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
	12%	11%	12%	13%	18%	16%	14%	4%

男女比	男性	女性	未回答
	35%	60%	5%